

早稲田大学 社会科学部 日本史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	全編史料問題だらけという特殊な問題であった。リード文が一切ないことや、正誤問題の作り方などから出題者が作問に慣れていないことがうかがわれる。教科書や史料集・用語集などから思いつきで作ったものが多いのではないだろうか。こういう場合は次年度の入試問題を予想することが難しくなるが、少なくとも史料問題の対策は綿密にしておくべきであろう。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
<input type="checkbox"/>	古代の史料	有名史料を中心にすべて語句を穴埋めさせる問題であった。問6は難問と言えるが、他は良い史料問題集を使って学習していれば正解できただろう。たとえば問3を難しく感じた人がいるかもしれないが、1994年の早稲田大政治経済学部で「鴻臚」を記述させる問題が出題されていた。それ以前にも早稲田ではここが出題されていたため、過去の出題データに沿って史料対策をしていけば、容易に正解できたのである。	標準
<input type="checkbox"/>	日明貿易	日明貿易に関する史料問題は、早稲田では過去に何度となく出題されてきた。「肥富をして祖阿に相副へしめ」の部分の書き下しは正しく改められたようである。	やや易
<input type="checkbox"/>	江戸時代の政治・経済・外交	問2・3が難問。この問題に限らないが、正誤文は山川出版の教科書を中心に、いくつかの教科書をもとに作成されているらしいことがうかがわれる。受験生はふつうは一種類の教科書しか読まないものだが、それを綿密に学習してもある程度の得点しか得られない。	標準
<input type="checkbox"/>	近現代の対外関係	本学部の大問のうちではもっとも難しかった。問2・4・6・10が難問。何のひねりもない単なる暗記力を試す問題ばかりで早稲田らしさに欠ける。他学部に見られる「考えて解く問題」は皆無で、受験生が過去問演習として解いてもほとんど参考にならない。	難